

市川

光 学 天 文 連 絡 会

GROUP OF OPTICAL AND INFRARED ASTRONOMERS (GOPIRA)

会 報

No. 36

1985-6-25

光学天文連絡会事務局 (京都大学理学部宇宙物理学教室)

体制WG会合メモ

日時: 1985年5月11日 14:30 ~ 17:45

場所: 東京大学理学部 天文学教室会議室

出席者: 石田, 大谷, 小倉, 関, 山下, 若松

- 議題
- 1) ユーザーズ・コミッティーの設置について
 - 2) 昭和59年度体制WGの活動報告について
 - 3) 次年度の体制WGの体制について

検討結果

- (1) 光天連の専門委員会の一つとして、ユーザーズ・コミッティーを設置する。
- (2) その目的は、岡山ユーザーズ・ミーティング、シュミット・シンポジウムのSOCと併せて、(イ) テレスコープ・アロケーション、(ロ) 機器開発、(リ) 計算機のソフトの開発と運用、(ニ) その他、などの基本方針について検討し、東京天文台プログラム相談会とのインターフェースとなる。
- (3) メンバーは、5~9名とする。
- (4) 次年度の体制WGのメンバーについては運営委員会に一任する。

討議経過

◎ 東京天文台プログラム相談会(2月6日開催)について以下の感想が各出席者から述べられた。
 ・プログラム編成の苦痛をかみ見ることができた。
 ・その場で改善点を見つけたりすることは必ずかしい。
 ・光天連から推選されたメンバーが4人初めて加わったが、第1回目としてはますますの成果であった。しかしその割には出来上がったプログラムは全体としてあまり変わりはない。
 ・自分以外の人に目を通してもらおうという意味で申し込ませた観測アポサールにコメントをつけてみてはどうか。
 ・あの場では十分な討議が出来たのか、岡山ユーザーズミーティングでの討議が非常に重要となる。
 ・そこでまとまった(イ) 観測機器のつけかえの回数を出せるだけ減らす、(ロ) 機器開発のためのテスト観測夜をとる、この方針が実現できるのは評価すべきである。
 ・プログラム編成の方針についてユーザー側へ資料を公表してもよいのではないか。
 ・プログラムについてユーザー側からクレームはなかったか。答へたし。

◎ ひき続いてユーザーズ・コミッティーの設置について次の意見があった。
 ・岡山ユーザーズミーティングで討議されたことをプログラム相談会でプログラムの中に実施してゆくためのインターフェースの機能を持つものがぜひ必要だ。
 ・相談会を年2回開いてもらうわけにゆかぬか。
 ・相談会は1日限りの会である。岡山・木曾は共同利用施設ではないので東京天文台のフォーマルな委員会として作ることは必ずかしい。
 ・相談会のメンバーを光天連が推選するというハイアが既に出来た以上、光天連はもっと責任をもってユーザーと相談会とのインターフェースとなるべきだ。
 ・その機能としてIAUシンポジウムのSOCのように、ユーザーズミーティングのサイエンティフィックな運営をやっているか。
 ・科研費のことまでやるのか。
 ・会の開催はこれまで通りボランティアが科研費をとり、その人が中びに任じて組織する。しかしその周辺に会のテーマなどについて相談にのる。

第34回運営委員会記録

日時: 1985年5月11日(土) 13:30~18:30

場所: 東大天文学教室 会議室

出席者: 委員 小暮, 小平, 寿岳, 田中, 磯部, 舞原, 平田, 兼吉, 若松, 田村, 安藤
(欠席: 清水, 山下, 西村, 岡村, 前原, 家)

委員 尾中

1. 諸報告

a) 事務局関係

事務局報告(田中)(別掲参照)

b) 各WG報告

各WGの1年間の活動報告が別掲のようであった。そのうちとくに体制WGから、ユーザーズコミティを設置するよう答申があり、その性格について説明があった。(別掲参照)

2. 諸報告書, 活動方針案作成

a) 全体の活動報告案が小暮委員長より提出され、若干修正されたものが了承された。

b) 総会での東京天文台WGにおける望遠鏡検討作業の報告は安藤氏が行なう。

c) 活動方針案(来年度)が小平氏より提出され討議の後了承された。(別掲参照)
今年各WGが夏にワークショップを行なうので、とくに経済的に大変である。旅費援助等を各材料費代表者にお願ひする。

d) 東京天文台望遠鏡WGにおける検討状況(小平)

・調査費概算要求書を5月に東京天文台から大学へ提出した。順調にいけば、8月頃文部省へ行くことになる。

・機械系の技術検討は順調に行なわれ、ほぼすべての項目のオブラウンドは終了した。技術検討会の技術者の方が現地視察に行かれる予定である。

・光学系の技術検討会もスタートした。

・サイトテスト、風洞実験は、その準備にかかっている。とくに風洞実験については、今年中に結論を得るべく努力している。

・主鏡材についても引き続き調査している。ハニカム鏡についてはアリゾナ大学と連絡をとりあって共同研究をおし進めている。

・体制問題についても他の研究機関との関係でいろいろレベルで議論がなされているが、結論を得るにはもう少し時間がかかる。

・アメリカではLIC 10mが出来たため、NNTT計画は遅れそうである。

3. 新年度光天連活動について

a) 運営委員会関係

運営委員長 小暮智一

事務局 京大, 事務局長 平田龍幸, 広報 舞原俊憲, 会計 南藤 衛
以上のことを了承した。

b) 重要な問題について委員の意見の集約を計って早急にきとめなくてはならない問題があるので、光天連シンポジウム以外に、3つのワークショップ(体制, 観測機器, 海外関係)を開く。

c) 体制WGから答申のあったユーザーズコミティ設置について議論した。

体制WGの仕事の中心は、JNLTに伴う体制問題にしばらくこの問題に新しいWGでやるべきであるとの認識で設置することになった。コミティの性格については、ユーザーと機関のパイプ役ということであるが、内容については別掲参照された。

d) 光天連の活動方針にある補助望遠鏡については、とくに望遠鏡WGで、早急に議論する段階ではないが、その重要性について、光天連として認識していきよすために活動方針に入れておくことになった。

e) 体制については調査費概算要求書も出たことを受けて、WGを中心に各形態の問題点を洗い出し、JNLTにふさわしい体制をまとめることを体制WGにお願ひすることになった。

f) 各WGのメンバーと世話人を以下のようにした。

体制WG: 小暮, 小平, 興田, 海部, 田原, 石田, 大谷, 関, 若松(O), 安藤(O)

望遠鏡WG: 田村, 兼吉, 野口(研), 平田, 市川, 辻, 佐々木, 舞原(O), 田中(O)

国際協力WG: 家, 小平, 寿岳(O), 石田, 磯部, 尾中, 山崎(O), 大谷 佐藤

ユーザーズコミティ: 山下, 清水, 石田, 前原(O), 田村(O), 若松, 小倉, 斎藤, 谷口, 定金

以上

(文責, 安藤祐泰, 小暮智一)

シンポジウム
大観光学・赤外線望遠鏡計画推進シンポジウム-1984, 1-1-
1984年11月19日-20日 東京大学総合図書館会議室 出席者 65名

沖35回運営委員会記録

日時・場所：1985年5月22日(水) 19:30~21:00, 仙台市戦災復興記念館
出席者：小暮, 平田, 舞原, 田中, 磯部, 若松, 兼古, 田村, 小平, 安藤, 佐々木(清水代理),
辻, (欠席：岡村, 山下)

1. 今年度の活動方針の具体化について

総会(5月22日夕方)で承認された今年度活動方針(総会の記録参照)を実際に行うための、具体的な検討を行った。

1) 光天連シンポジウム：今年度は、JNL T(ハワイ設置)を擁する全国共同利用の機関としての体制(管理運営の体制, 研究・開発の体制等)の具体的な検討を迫られている年である, その認識に立って, 体制の問題を中心に据えたシンポジウムを12月(仮)に行うことになった。尚, シンポジウムでは, 現在懸案となっている望遠鏡自体の技術的問題についても大筋の結論が得られることを期待する。世話人は, 若松, 田中, 田村とし, シンポジウムまでに体制ワーキンググループで, 内容, やり方の案を詰めていくことになった。その為早い時期に「体制問題のワークショップ」を企画する。

2) 望遠鏡ワーキンググループ企画のワークショップ：今年度は, JNL Tにおける赤外線観測技術の基本的な問題を深めるための「赤外線観測技術ワークショップ」と, JNL Tに基着すべき観測装置の仕様を検討する「観測機器ワークショップ」をもつことになった。世話人は, 前者は, 舞原・野口, 後者は辻, 安藤。(詳しくは会報本号p.17参照)

尚, 東京天文台を中心に進められている望遠鏡技術検討の結果についても, 中向レベル的ワークショップを(運営委としては)行う方向で検討してみても, ということになった。そこでレポートを資料集として印刷発行することを含め, 東京天文台のメンバーを中心に検討することになった。

2. その他

今年度開催が予定されている各種シンポジウム, 研究会のスケジュール等についての情報交換があった(会報本号p.17参照)。

(文責 小暮智一 舞原俊憲)

光学天文連絡会 第8回総会記録

日時・場所：1985年5月22日 18:00~19:00, 仙台市戦災復興記念館

参加者：51名(延)

報告・議題：項目と報告者のみ掲げ, 当日配布の内容資料は以下に列挙。

- 1984年度会務報告・同会計事務報告：田中(済)
- 1984年度活動報告(運営委員会)：小暮
同補足「東京天文台の取組・準備状況」：小平
- 望遠鏡ワーキンググループ報告：磯部
- 東京天文台内望遠鏡ワーキンググループのJNL T検討の現状報告：坂藤
- 体制ワーキンググループ報告：若松
- 国際協力ワーキンググループ報告：寿岳
- 1985年度活動方針：小暮
- 1985年度の委員の選出と承認
- 1985年度事務局の承認

1. 光学天文連絡会1984年度会務報告

1). 総会・懇談会

第7回総会	1984年5月23日	東京・調布市市民福祉会館	出席者	46名
懇談会	1984年8月28日	木曾・日義村公民館ホール	出席者	約40名
懇談会	1984年10月17日	広島・竹原市市民館会議室	出席者	約40名

2). 運営委員会

第30回	1984年7月18日	東京大学天文学教室会議室	出席者	14名
第31回	1984年11月20日	〃	出席者	23名
第32回	1984年12月11日	宇宙科学研45号館会議室	出席者	19名
第33回	1985年3月23日	東京大学天文学教室会議室	出席者	13名
第34回	1985年5月11日	〃	出席者	12名

3). 専門委員会

体制WG	1984年8月27日	木曾・日義村公民館会議室	出席者	6名
〃	1984年10月2日	国立京都国際会館・会議室	出席者	約10名
〃	1984年12月11日	宇宙科学研45号館会議室	出席者	12名
〃	1985年2月13日	東京大学天文学教室会議室	出席者	11名
〃	1985年3月1日	宇宙科学研45号館会議室	出席者	8名
〃	1985年5月10日	東京大学天文学教室会議室	出席者	6名

望遠鏡WG、国際協力WGは会合なし

4). シンポジウム

大型光学・赤外線望遠鏡計画推進シンポジウム-1984.11-	1984年11月19日-20日	東京大学総合図書館会議室	出席者	65名
--------------------------------	-----------------	--------------	-----	-----

5). 会報					
No. 31	1984年	6月20日発行	16頁		
No. 32	1984年	8月30日発行	12頁		
No. 33	1984年	11月15日発行	12頁		
No. 34	1985年	1月21日発行	16頁		
特別号	1985年	3月1日発行	30頁		
No. 35	1985年	4月25日発行	12頁		

6). 会員名簿
1985年2月15日現在で発行 会員数211名

7). 運営委員選挙
1985年3月1日公示、3月20日締切、3月23日開票 (会報No. 35参照)

1984年度光学天文連絡会会計事務報告 1985年5月22日現在

収入の部					
1984年度会費	一般	2,000円	146名		292,000円
	学生	1,000円	35名		35,000円
	その他	1,500円	2名		3,000円
	半納者	1,000円	2名		2,000円
	前納者残額分	1,000円	11名		11,000円
1982、1983年度滞納分		1,000円	18名(のへ)		18,000円
1985年度前納	一般	2,000円	3名		6,000円
前年度繰越金					3,758円
収入合計					370,758円

支出の部					
会報印刷費	31号	23,000円	(郵送料)	12,230円	
	32号	15,750円	(")	12,200円	
	33号	18,000円	(")	12,320円	
	34号	20,600円	(")	12,640円	
	35号	18,000円	(")	12,280円	
	特別号	55,800円	(")	23,880円	
	写真代	2,185円	(")	15,960円	
会員名簿印刷費(含選挙文書)		39,800円			
切手代		104,700円			
封筒代	大型	3,750円			
	中型	1,250円			
	小型	330円			
領収書代		200円			
振替口座加入料		50円			
振替口座払込料		50円			
残金		67,293円			
支出合計		370,758円			

資産の部					
切手	1,210円分、	葉書	12枚		
封筒	大型 2部、	中型	31部、	小型	89部
領収書	37枚				
スタンブー式					

会費納入状況					
1984年度分完納者(含)	1,500円)	一般	159名		
		学生	38名(前納者3名)		
		半納者	3名		
		未納者	11名		
		1984年度分			

2. 昭和59年度 光学天文連絡会 活動報告

運営委員会

1). 全般的経過
第7回総会(昭和59年5月23日)は決議「大型光学赤外線望遠鏡の建設推進について」を採択し、光学赤外線波長域において高い解像力(近赤外で $\sim 0.1''$)と広い視野(写野 $> 0.5^\circ$)を持つ大型望遠鏡(口径5m以上)をハワイ島マウナケア観測所に設置すべきことを関連研究者の決意として表明した。

この決議に沿って本年度活動方針として望遠鏡・観測装置の具体的検討、新技術の研究・開発、共同利用体制の検討、国際協力の推進、当面の観測・研究体制及び補助望遠鏡の検討などがあげられた。これらの方針は長期的活動目標を含むものであるが、この1年間では特に望遠鏡・観測装置の検討の面で順調な進歩が見られた。また、共同利用体制の検討課題がクローズアップし本格的な取り組みが始まった。東京天文台を窓口とする予算要求への準備も進展している。これらについて以下順次に報告する。

2). 望遠鏡の基本構想

大型光学赤外線望遠鏡(JNL T)の口径を7.5mとする可能性について、昭和59年7月18日の運営委員会では望遠鏡WG及びサブグループ(広視野、高分散分光、赤外)の報告に基づき、7.5mを目標に設定することにした。当面この目標で検討を進め、光天連としての目標設定は11月に開かれるシンポジウムにおいて行なうことにした。

11月19-20日に東京で開かれた大型光学赤外線望遠鏡計画推進シンポジウムでは2日間の討論の後、JNL Tの口径を7.5mとして、望遠鏡及び付属設備の設計検討に進むことが合意された。現在、この基本構想に沿って技術的検討が続けられている。この構想に基づく「大型光学赤外線望遠鏡建設設計画書」は光天連会報特別号として昭和60年3月1日発行され、会員及び関係方面に配布された。

3). 望遠鏡・観測装置の技術的検討

望遠鏡建設に関する技術的検討は東京天文台望遠鏡WGが中心となって進めており、赤外線関係等、必要に応じて他機関の研究者も参加する形になっている。その検討状況はWG報告として光天連会員の希望者に配布されており、ほぼ毎週開かれるWGの報告はすでに79号(5月15日現在)に達している。また、専門技術を有する企業との技術検討会も随時開かれており、全体としてJNL Tに関する技術的検討は着実に進歩している。

現在課題となっている主な問題点を次に列挙する。

- (1)主鏡：ハニカム鏡、薄メニスカス鏡、CFRP鏡について、力学、熱特性、製造期間、開発状況などの比較調査。
- (2)光学系：F/2、FOV $\sim 0.5^\circ$ 、解像力 $\sim 0.1''$ を目標とする補正レンズ系の検討。

- (3)機械系： 鏡筒（トップリング交換機構）、架台、駆動制御関係の検討。
 (4)観測機器： 撮像、測光、分光、赤外の各観測装置及びデータ処理系の基本構想と光学系・機械系の検討。
 (5)設置場所： サイトテスト計画、風洞実験計画。
 (6)ドーム、付属建物、その他。
- 一年間の検討によって7.5m鏡建設の技術的可能性について大きな前進が見られたが、まだ未解決の点も多く、今後はさらに全国の関連研究者を含めた検討の進展を望みたい。

4). 研究体制の検討

本年度は体制WGを中心に2つの大きな課題に取り組んだ。第1はJNL T完成までの観測研究体制を含め、岡山、木曾の有効利用の方策を検討すること、第2はJNL T建設に伴う全国共同利用体制の検討である。年度当初、主として第1の課題を任務としてWGが出発したが、59年8月のシュミットシンポジウムにおける光天連懇談会の頃から第2の課題が重要となり、それ以後、両課題が並行して検討された。

1年間の討議により、岡山・木曾の有効利用については、(1)ユーザーズコミッテイを光天連の専門委員会として設置すること、(2)東京天文台プログラム相談会の台外メンバーを光天連から推薦すること、の2点について合意が得られた。

全国共同利用研究体制については本年度は予備的調査の段階に留まったが、この問題は光学・赤外線分野に限らず、天文学全分野とも深くかわり、また、計画の進展によっては早急に解決を求められる可能性もあるので、光天連としても調査・研究を促進する必要がある。

5). 建設計画推進への動き

天文学研究連絡委員会は昭和59年7月、12月、昭和60年3月に開催され、大型光学赤外線望遠鏡の建設が重要課題として慎重に審議された。7月と12月の委員会では次の2点が合意された。

第1に光学天文連絡会が検討している大型光学赤外線望遠鏡建設計画を天文研連として endorse する。第2にこの計画について東京天文台で進められている調査活動と実現のための検討を encourage する、というものである。第1の点については3月28日の委員会において「我が国の光学・赤外線天文学の推進について」が採択された。

また、天文研連は天文学全般に渡っての将来計画書をまとめ、天文月報（昭和60年3月号）にも公表されたが、その中で光学赤外線望遠鏡建設は重要な計画として位置づけられている。

東京天文台では天文研連での合意に基づき、概算要求提出への準備が遂行している。設置場所については、ハワイ側との折衝も順調に遂行している。昭和59年7月にはハワイ大学 D.N.B. Hall MKO台長より将来交換すべき Memorandum of understanding の草案が送られてきた。10月の第3回 IAUアジア太平洋地域会議では小平が計画の概要を報告し、D.N.B. Hall 台長から歓迎する旨の発言があった。11月の MKO Users

Meeting には日本から小平が出席し、日本における計画推進の現状について報告した。サイトテストについても緊密な連絡がとられており、今後も協力が得られる見通しである。

また、ハニカム鏡の開発についてアリゾナ大学との研究協力も順調に進んでいる。

6). 国際交流、海外観測

JNL T計画の概要は次の国際会議において紹介された。

国際会議名	年月	場所	報告者
IAUシンポジウムNo. 「Very Large Telescope and its Instrumentation and Programmes」	1984年 4月	ガルヒン (ミュンヘン)	磯部
日本-中国ワークショップ 「恒星の活動と観測技術」	1984年 5月	北京大学	小平
国際光学委員会総会	1984年 8月	札幌	磯部
第3回 IAUアジア太平洋地域会議	1984年10月	京都	小平

本年度は次の国際共同研究計画が採択され、それぞれの課題に従って国際交流、海外観測が実施された。

- ・文部省海外学術調査（代表者 寿岳潤）「ハワイ マウナケア天文台における観測に基づく星の生成と終末に関する研究」（昭和59、60年度）
- ・日本学術振興会国際共同研究（日仏）（代表者 高瀬文志郎）「紫外超過銀河の構造と進化」（昭和59、60年度）
- ・日本学術振興会国際共同研究（日中）（代表者 小暮智一）「恒星及び銀河の活動性の研究」（昭和59、60年度）

この他、個別的にも CT10, Meudon, UC, Helwan, Bosscha 等への観測または研究交流の渡航が相次いで実施された。

(補足) 東京天文台の取組について(小平)：「台内における望遠鏡ワーキンググループ及び個々のテーマについての技術研究会を行ってきた。7.5m望遠鏡の実行プランを具体化する努力をしてきた。その作業の結果に基づいて、昭和61年度調査費概算要求を東京大学に提出したので、光天連内外のサポートも期待している」とのコメントがあった。

3. 望遠鏡WG報告

第28回運営委員会(1984.3.14)において望遠鏡WGは東京天文台望遠鏡WGと一般会員とのパイプ役をはたすことが重要であると決められた。(会報No.30 p.14)
光学天文連絡会第七回総会(1984.5.23)において昭和59年度の次のような活動方針が承認された。

1. 東京天文台望遠鏡WGおよび他グループの作業状況の把握と会員への報告。
2. 会員の意見集約。
3. 作業分担を全国規模で行なう場合のmanagement。
4. 記録の整理。

これにしたがい

1. 東京天文台望遠鏡WGの会合記録(タイトルは会報No.31 p.14, No.33 p.8, No.35 p.11)がWGメンバーおよび希望者に配布された。
2. 技術的な論文の要約を分担して行なった。
3. 広視野サブグループ、高分散分光サブグループ、赤外サブグループ、7.5mサブグループを作り各々検討し、又会員の意見の集約を行なって、その結果を第30回運営委員会(1984.7.18)に報告した。

以上(文責 磯部)

(質疑) Q: シーングが良いマウナケアで30分角の視野をもつJNLTは球状星団の観測にも最良の望遠鏡となる。学芸大からも技術面で協力(例えば、エレクトロニクスやソフト)をしていける可能性はありうろか。
A: 計画推進には、色々のコミットのし方があり期待したい、又、今年は各種のワークショップが計画されているので、積極的に参加してほしい。

4. 東京天文台内望遠鏡WGのJNLT検討の現状報告

(1) 主鏡

ハニカム鏡: 外部温度の変化に伴う、鏡材内非一様温度発生の問題はイメージの良否にかかわる問題である。この熱制御の問題について計算ではあるが、アリゾナ大学と情報交換して、共同研究を行ないつつある。磯部氏と中心に94cmのハニカム鏡が製作中で、この実験も行なわれる。

アリゾナ大学は1.8mの鏡を作り、熱制御の問題を調べている。

薄X=スラス鏡: 製作期間は4年とされている。

ゼロデミア plano-plano → ① 焼成してX=スラス } の2面が2mmX-カが
② 切削してX=スラス } 出ている。2.53が
本音が調査中。

ESO: 3.6mのX=スラスで作るが、8mの鏡はエプグレイトと検討中。

CFRP 鏡: カーボンファイバー繊維(野辺山45m鏡面と同じの)

問題点
・ 繊維に方向性がある。
・ 力学的熱的特性について不明 → 調査中
・ 光学面に粗さが残る。

サポート機構

自重変形計算より

ハニカム	axial 方向	80点
	radial 方向	ハニカムの構造による
X=スラス	axial 方向	170点
	radial 方向	普通のサリ方(からリター-ウェイト方式など)

以上のとおりであった。

(2) 光学系

補正レンズ系は $f/2$, FOV ~ 0.5 , 解像力 ~ 0.1 の目標値に近づきつつある。

(双曲面主鏡 + 非球面レンズ) の組合せを検討中

検討課題

- ・ 大きなレンズになるので材質が限定される
- ・ 非球面レンズの研究と検査方法
- ・ 最終 オプティマイゼーション
- ・ コーティングに際して 波長領域カバーを分けなければならぬかもしれない。(複数個のコレクター)

(3) 機械系

鏡筒、架台に関しては、昨年の光天連シンポの清水氏の手を参考にしたい。

その他新たに検討された問題

- ・ トップリングの交換: 望遠鏡筒を立てて行なうか、水平にして行なうか検討中
- ・ オートガイダーの検討

- ・アライメント・システムの検討
- ・リモートオペレーションシステムの検討

(4) 観測機器

各焦点を考えている装置の一覧表は、昨年の光天連シムボ止氏の表を参照されたい。
 会員諸氏には積極的に意見を寄せられるようお願いし、
 ・検出器についても検討された。主にCCDで行うが、目的によっては光電管も検討された。

(5) サイトテスト, 風洞実験

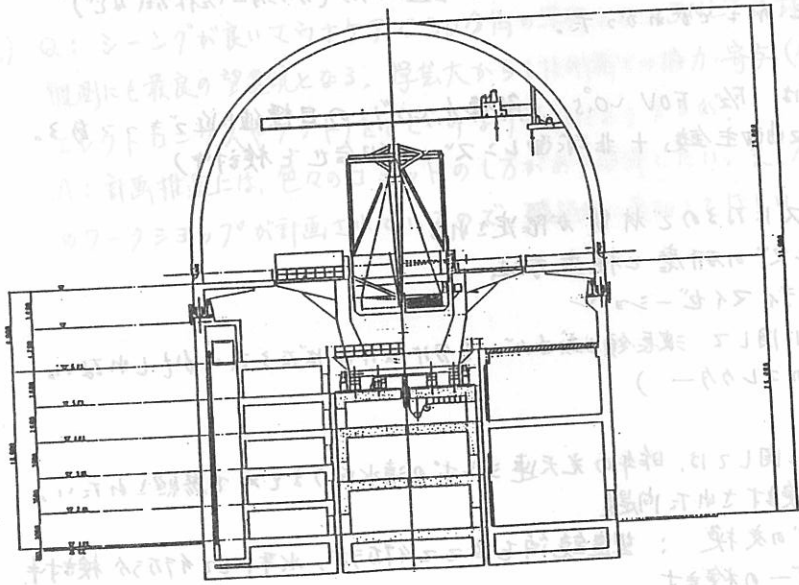
(a) 風洞実験
 地形, 既設ドーム群による風のwakeの影響を調べる。前者は1/500の模型, 後者は1/500の模型で実験する。平面内でのサイト候補地もいくつか選ぶ。

(b) サイトテスト

・30~40mのタワーを立て, 風向, 風速, マイクロマールターゲレス(温度)を測定する。風のwakeの影響を受けない高さを決める(ドームの高さ)。
 ・小型望遠鏡によるシーイングテストは, 必ずしも大型望遠鏡のシーイングテストと同じでないことがあるので, 余力があれば, 行うこととする。1~1.5年続けた。

(6) ドーム

- ・シーイング対策としてドーム熱対策を考える。(既設天文台を調べたため温度測定を行った)
- ・高さをどこまでいかにするか
- ・クーデラボをどこへおくか
- ・見学者ギャラリーをどこにするか
- ・鏡・モニ装置
- ・水, 電力, 通信
- ・ほかの向きの検討を行っている。



文責 安藤祐康

5. 昭和59年度体制WG活動報告

体制WG

本WGは昭和58年度と同様 (A) 岡山の望遠鏡の有効利用のための方策, (B) JNLTの体制, について検討を重ね以下の活動を行って来た。

(A) 岡山の望遠鏡の有効利用のための方策

JNLTの共同利用体制の検討に当たっても, 現在の岡山・木曾の共同利用の運用とより充実したものにして行く必要がある。この観点から本テーマと本年の主要課題として検討を重ねて来た。
 (A)-1 レズリー制・大プロジェクト制の導入について, 岡山観測所が直面している課題として (a) 岡山として特徴ある研究の育成, (b) 機器開発の活性化

(c) 研究テーマの共倒れの防止, 等と推進するため, 大プロジェクト制・レズリー制の導入

について検討して来たが, 会員諸氏の間で十分な合意に達することができず, 結論が得られなかった。
 (A)-2 東京天文台プログラム相談会の台外メンバーの推薦について

ホスト側である東京天文台と全国の望遠鏡利用者との間で意思疎通をより密にする必要があるとの立場から, この事と12月11日の運営委員会へ申し入れた。その結果, 昭和60年度のプログラム相談会へ, 光天連推薦の4名が出席した。
 (A)-3 ユーザー・コミッティーの設置について, ユーザー側とホスト側とで

(c) 計算機のソフト開発と運用, 等の基本方針について意見と交換し, 討議と深める

ことが望遠鏡の共同利用にとって極めて重要である。その場として, かねてよりシムボ・シンポジウムが, また59年度より岡山ユーザーズ・ミーティングが催されて来た。一方, 光天連と東京天文台プログラム相談会とのパイプが作られた(A-2)。そこで, ユーザー側の諸ミーティングとプログラム相談会とのインターフェースとして, 光天連にユーザーズ・コミッティーを常設する事が必要であると結論に達し, 5月11日の運営委員会にその旨申し入れ, 同日開かれた運営委員会で承認された。

(B) JNLTの体制について

本年は, JNLT計画が急進展してきた年であり, またその体制についても天文分野全体の再編成の動きが出て来た状況であった。

まず, 国立大学共同利用機関等の組織についての資料収集, 既設の施設(岡山, 木曾, 野辺山)や, 外国の天文台から学ぶ事, 問題点の指摘などを行った。また, JNLTの体制について検討すべき項目の整理も行っている段階である。

6. 国際協力WG活動報告 (寿岳)

昭和59年10月 IAU Regional Meeting が京都で開かれた際, 小暮(光天連), 古在(東京天文台), 小平(JNLT)各氏がハワイ大学天文学研究所長 D. Hall氏と会談した。また11月2日コナで開かれた Mauna Kea Users' Committee Meeting に小平氏が出席し, JNLT計画の進行状況について報告した。今年度は海外学術調査「ハワイマウナケア天文台における観測に基づく星の生成と終末に関する研究」(59041022)が認められ5パーティがハワイ大学の望遠鏡による観測を行なった。野辺山宇宙電波観測所とUKIRTの共同研究が始まり, 相互の乗入れが始まった。チリアの諸天文台による赤外線観測も行なわれた。その他日仏, 日中の共同研究も進行中である。国際協力委員会(JICA)計画によって北村, 清水(東京天文台)両氏がエジプトのヘルワン天文台を訪問した。

7. 昭和60年度活動方針

光学天文連絡会

1). 活動の目標

光天連を中心とする関連研究者によって提案された大型光学赤外線望遠鏡計画案が天文学研究連絡委員会によって承認推薦をうけ、東京天文台を中心にそのための調査検討が開始されている。このような状況をふまえ、本年度は次のような活動に重点をおく。

- (1) 目指すべき全国共同利用体制の策定
- (2) 大型望遠鏡の仕様及び関連機器の検討
- (3) 建設地点の検討
- (4) 大型望遠鏡の完成までの期間における観測、研究体制および補助望遠鏡の検討

2). 活動計画

- イ) 総会、運営委員会の開催および会報発行
- ロ) シンポジウム、研究会などの開催

(1) 光学天文連絡会が主体となって行うもの

- A) 光天連シンポジウム
大型光学赤外線望遠鏡の技術的課題および運用体制の検討
- B) 各種ワークショップ
赤外線観測技術、観測装置、研究体制の検討

(2) 関連グループとの協力で行うもの

- A) 岡山ユーザースミューティング
- B) 技術シンポジウム
- C) シュミットシンポジウム
- D) 星の研究会

ハ) 各WGの活動

(1) 体制WG

- ・目指すべき全国共同利用体制の検討
- ・大型望遠鏡と既存観測所との関係
- ・ユーザースコミッティとの任務調整

(2) 望遠鏡WG

- ・技術検討の情報の流通
- ・望遠鏡仕様等についての会員の意見の集約
- ・検討資料の整理(資料集発行を目指す)

(3) 国際協力WG

- ・サイトテストの推進
- ・日米科学協力事業の検討

ニ) PR活動

大型光学赤外線望遠鏡ばかりでなく、光学・赤外線観測に関する幅広い面での推進をはかる。そのため、全体的な計画を各方面に認識してもらい、積極的な支持が得られるようなPR活動を行う。

(質疑) コメント: トリスタン計画の次の大きなプロジェクトとして、このJNLITはタイミングを逃がさないうでスタートさせないと、実現が困難になる。

Q: 全国共同利用体制のあり方に関連してくるが、現在検討されている周囲の研究機関等の改組・再編成の状況とは、どうからんでくるのか。

A: 光天連としては、まわりの状況にふりまわさず、まず理想的な運営・研究の形態を検討していくべきで、特に今年は、体制ワーキンググループとトリガーとして議論を深めていきたい。

コメント: それは基本構想(strategy)としては良いが、タイムリミットのことがあり、体制の立案を考える時も、時機を失つしないうで当面の対応策(tactics)を持つていなければならぬ。

コメント: 基本構想が計画の進展に遅れながら定まらないうではまずいので、常に(聴かぬよりも)半歩前を出ていなければならぬ。

昭和60年度 光天連委員

(○: 世話人)

運営委員

安藤、家、磯部(S)、岡村、兼古、小暮(委員長)、小平、清水(M)、田中(W)、田村、西村(S)、平田、舞原、山下(Y)、若松

望遠鏡WG

岡村、市川(T)、兼古、佐々木(T)、田中(W)(○)、辻、野口(K)、平田、舞原(○)

体制WG

安藤(○)、石田(K)、大谷、奥田、海部、小暮、小平、田原、若松(○)、関

国際協力WG

家、磯部(S)、石田(K)、大谷、尾中、小平、佐藤(S)、寿岳(○)、山崎(○)

ユーザーズ・コミッティ

石田(K)、小倉、斎藤(M)、清水(M)、定金、谷口、田村(○)、前原(○)、山下(Y)、若松

事務局(京都)

TEL 075-751-2111

事務局長 平田龍幸 (内) 3902
 会計担当 斎藤 衛 (内) 3904
 広報担当 舞原俊憲 (内) 3858

60年度第1回体制WG会合メモ

日時：昭和60年5月22日

場所：仙台市戦災復興記念館会議室

出席者：安藤、石田、小暮、小平、関、若松、(下田、前原、田村、オグバー)

議題：体制問題 ワークショップの開催について

結果：シュミット・シンポ終了後に引き続いて9月5日～7日の間、同会場(岐阜県流葉スキー場)で、体制問題のワークショップを開き、光天連としてのたき台を作る。

討議経過：◎小暮委員長より光天連としてのJNL Tの直接の運用体制について、てほしい、との諮問があった。その要点として① JNL Tの直接の運用体制について、② 共同利用体制について、③ 日本の天文研究体制について、である。特に③については、a) 中央の研究機関への集中の度合、b) 各研究機関とのco-operativeとcompetitiveな関係について、また研連委での体制問題に関する質疑(会報35号8頁)について報告があった。◎若松より運営委員会での本年の活動方針のうち体制関係について以下の報告があった。光天連としての体制に関する案を作りあげて行くため、①9月に体制WGのメンバーを中心にワークショップを開いて、資料整理、問題点の整理、具体案の作製を行う。②12月ないし1月の光天連シンポで、この案について会員各位の間で討議してもらう。③この間、岡山ユーザーズミーティング、シュミット・シンポ、星の研究会などの所々に積極的な意見交換を行う。◎小平より東京天文台でのJNL Tの概算要求に関する経過報告があった。◎その他、剋地審議会での水沢問題、空電研の動きなど関連分野の動きについて報告があった。(文責 若松)

光天連 Workshop, Symposium 及び関連する Symposiumのスケジュール

本年度は大型光学赤外望遠鏡のツメの段階で、光天連シンポ以外に各種 Workshop がもたれます。関連 Symposiumを含めて、日程(予定を含む)をお知らせします。問い合わせ、御意見があれば世話人又は事務局まで御連絡下さい。

- ◎ 光天連 Workshop (赤外線観測技術) 詳細は別記案内参照
 - 日程：1985年 8月 29-30日
 - 場所：関西セミナーハウス(京都)
 - 世話人：野口(邦)、舞原、田中(培)
- ◎ シュミット・シンポジウム
 - 日程：1985年 9月 3-4日
 - 場所：流葉(岐阜県)
 - 世話人：斎藤(衛)、岡村
- ◎ 技術シンポジウム
 - 日程：1985年 9月 5-6日
 - 場所：同上
 - 世話人：沖田、青木(勉)、大島、川島、中桐、三上
- ◎ 光天連 Workshop (体制問題)
 - 日程：1985年 9月 6-8日
 - 場所：同上
 - 世話人：若松、安藤
- ◎ 岡山 User's meeting
 - 日程：1985年10月 22-23日午前
 - 場所：東京大学図書館
 - 世話人：清水(実)
- ◎ 光天連 Workshop (観測機器)
 - 日程：1985年10月23日午後～24日
 - 場所：東京大学天文学教室会議室
 - 世話人：辻、安藤

・ 光天連シンポジウム、星の研究会は、12月または1月の予定です。
 ・ シュミット・シンポ、秋季年会(10月7-9日)、星の研究会の際には、光天連懇談会が予定されています。

「赤外線観測技術ワークショップ」案内

INFRARED TECHNOLOGY WORKSHOP

光天連「望遠鏡ワーキング・グループ」の企画として、下記のように赤外関係のワークショップ(IR Tech WS)を計画しています。JNL Tを念頭において、赤外線望遠鏡としての条件、観測装置、ナスミス・カセグレン各焦点の関係等について、技術的な問題を中心に検討するワークショップです。興味をお持ちの方の積極的な参加を募ります。

日程：1985年 8月29日(木) 13:30～30日(金) 17:00
 場所：京都 関西セミナーハウス(修学院離宮 横)

参加御希望の方は、世話人まで御連絡下さい。なお、書面による参加(レポート、コメントをプロシーディングスに掲載)も募ります。

世話人 野口(邦)(名大・理)、舞原、田中(培)(京大・理)

** 海外渡航 **

家 正則 (東京天文台)
5/13 - 5/23 ESO La Silla 観測所 (観測)
6/1 - 7/1 西独 ESO 本部
佐藤修二 (京大理)
3/1 - 12/31 ハワイ大学

** 会員の移動 **

< 新入 >

田中培生 京都大学理学部物理第二教室
〒606 京都市左京区北白川追分町
長田哲也 同上
田村元秀 同上
太田耕司 京都大学理学部宇宙物理学教室
〒606 京都市左京区北白川追分町
洞口俊博 同上
松岡 勝 宇宙科学研究所
〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1

< 異動 >

中村誠臣 福岡管区気象台観測課
〒811-02 福岡県東区 [REDACTED]
中田典規 千葉経済短期大学
〒260 千葉市轟町 4-3-30 TEL 0472-55-3451
富田弘一郎 〒158 東京都世田谷区 [REDACTED] TEL 03-[REDACTED]
大坪順次 静岡大学工学部光電機械工学科
〒432 浜松市城北 3-5-1

** 会費納入のお願い **

年間会費は 一般 2000円、院生・学生 1000円です。
郵便振替 (口座番号 京都 6-17558 光学天文連絡会) によるか、または
しかるべき機会に直接に事務局へお送り下さい。

1985年 8月30日 (木) 13:30 (金) 17:00
(対 官廳宛) 大野ハ-マシマ西開 藤京

1-ホウ) 町並るる面書、はひ、のち不詳新職すま人語出、お式の聖帝崎川登
(聖・大京) (計) 中田、泉興、(聖・大京) (機) 口程、人語世